

くにたちしけんりようごしえんしんぎかい  
**国立市権利擁護支援審議会**

だい かい れいわ ねん がつ にち  
**(第3回 令和6年11月7日)**

かいぎろく  
会議録

かいぎめい 会議名	だい かい くにたちしけんりようごしえんしんぎかい 第3回 国立市権利擁護支援審議会	
にちじ 日時	れいわ ねん がつ にち もく ごご じ ふん から じ ふん 令和6年11月7日(木) 午後6時30分から8時30分	
ば場所 場所	くにたちふくしかい館 かい だい くにたち福祉会館4階 大ホール	
出席者 しゅせきしゃ	いん 委員	そね なおき はやし ひろき あきの たつひこ かなざわ ゆうこ よこた まさし 曾根 直樹・林 大樹・秋野 達彦・金澤 裕子・横田 昌志・ こやま はるよし はやし みずちか やまじ けいこ いけだ きさき むらかみ さちえ 小山 晴義・林 瑞哉・山地 圭子・池田 希咲・村上 幸恵・ いのうえ はるな はが ひろゆき さとう としえ 井上 晴菜・芳賀 弘幸・佐藤 寿江
	じむきょく 事務局	くにたちしやくしょ (国立市役所) ふくし総務課長、地域福祉推進係主任 (国立市社会福祉協議会) けんりようごせんたー にかちようほさ けんりようごせんたー しゅじ 権利擁護センター 課長補佐、権利擁護センター 主事
けつせきいん 欠席委員	こだま みやこ 兒玉 美也古	
ぎだい 議題	けんりようごしえんすいしんけんしゅう い し けつていしえん 1. 権利擁護支援推進研修 ～意思決定支援とは?～ こうし いてんしゃだんほうじんにほん い し けつていしえん 講師: 一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク副代表 成年後見制度利用促進専門家会議委員 にほんしほうしえん ほう ほんぶ 日本司法支援センター(法テラス)本部 べんごし みずしま としひこ 弁護士 水島 俊彦 氏 2. 第2回振り返りについて 3. その他	
こうかい ひこうかい べつ 公開・非公開の別	こうかい 公開	
ひこうかい りゆう 非公開の理由		
ほうちょうにん かず 傍聴人の数	10名	
はいふしりよう 配布資料	しりよう 1 だい かい ふ かえ およ 資料 1 第2回振り返り(アンケート及びヒアリング) しりよう 2 けんりようごしえんすいしんけんしゅう い し けつていしえん 資料 2 権利擁護支援推進研修 ～意思決定支援とは?～ しりよう 3-1 くにたちしけんりようごしえんすいしんけいかくさくてい し ないしじぎょうしよ 資料3-1 国立市権利擁護支援推進計画策定のための市内事業所アンケート ちやうさ 調査 しりよう 3-2 くにたちしけんりようごしえんすいしんけいかくさくてい ちやうさ 資料3-2 国立市権利擁護支援推進計画策定のためのアンケート調査 しりよう 3-3 くにたちしけんりようごしえんすいしんけいかくさくてい 資料3-3 国立市権利擁護支援推進計画策定のためのヒアリング	

だい かい く に たち し け ん り よ う ご し え ん し ん ぎ かい  
第3回 国立市権利擁護支援審議会

【曾根会長】 みな さん、こんばんは。くにたちしけんりようごしえんしんぎかい だい かい はじ おも  
まず、前回の議事録の確認について事務局からお願いします。  
す。

ぜんかい ぎじろく かくにん じむきょく ねが  
まず、前回の議事録の確認について事務局からお願いします。

じむきょく みな あらた きゅう ふゆ さむ みな たいちようくず  
【事務局】 では、皆さま、改めましてこんばんは。急に冬みたいな寒さになって、皆さん、体調崩されていない  
でしょうか。

ぜんかい ぎじろく かくにん おも じぜん おく おも  
まず、前回の議事録の確認をさせていただきたいと思います。事前に送らせていただいたかと思うんですけれ  
ども、ご覧いただいて、何か修正ですとか、ございましたでしょうか。ございましたら挙手にてお知らせいた  
ければと思います。ちなみにですね、今回、「第2回」の議事録だったんですが、「第1回」の議事録というタイト  
ルになってしまっていて申し訳ありませんでした。「第2回」でございます。公表する際には修正をさせていただ  
きます。それ以外の部分で何かございましたらお知らせください。よろしいでしょうか。

むらかみいん なか わたし はつげん なか した ぎょうめ ちち ひきや そだ  
【村上委員】 10ページの中の私が発言した中で下から3行目で、「父がなくなるまでは曳家で育ったの  
で」と書いてあるのですが、終戦の「引き揚げ」ということです。ちょっと分からなかったかもしれません。

じむきょく じむきょく ほう しゅうせい おも なに ごしゅうせい  
【事務局】 はい。では事務局の方でそこを修正させていただきたいと思います。そのほか、何かご修正のどこ  
ろかございますでしょうか。よろしいでしょうか。

い ぎ  
(異議なし)

じむきょく ぎじろく ないよう きさい おも  
【事務局】 それでは議事録につきましては、ホームページに、この内容で記載をさせていただきたいと思いま



さいしょ きょうこうし みずしませんせい い し けっていし えん けんしゅう みな う  
最初に、今日講師でおいでいただいた水島先生から「意思決定支援とは？」ということで研修を皆さんで受

けたいと思います。

それからそのあとですね、第2回の振り返りということで、特に今後の会議をどう進めていったらいいのかとい

うことについて少し皆さんと話し合いたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

これは研修が終わった後、詳しくですね、内容をお伝えさせていただきたいと思っております。

じゃあ水島先生、よろしくお願いします。

【事務局】では本日の講師のご紹介をさせていただきます。本日は、意思決定支援等に関しまして、皆様の

知識を広めていただきたいと考え、第1回同様に、研修会を開催することとさせていただきました。

本日の研修会の講師を御紹介させていただきます。日本司法支援センター（法テラス）本部弁護士の水島

俊彦様でございます。水島様につきましては、2016年から厚生労働省の成年後見制度利用促進専門家

会議の委員を務められ、2017年からは一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク副代表を務められてお

ります。本日は、意思決定支援等について研修をお願いしております。

それでは、水島様、よろしくお願いいたします。

【水島氏】ただいま御紹介いただきました弁護士の水島と申します。皆様、よろしくお願いいたします。

今日は、出張続きなのか、少し耳が聞こえづらくなっておりまして、皆さんからもし後で何か質問があるとき

に聞き直させていただくかもしれませんけれども、何とぞよろしくお願いいたします。

今日は、私、1時間お時間をいただいております、皆様にお手元の資料、分かりやすい版ということで、

平仮名になっているものもございますけれども、それぞれ内容は同じでございますので、進めてまいります。

わたし じ こしょうかい だ わたし ほんしよく しごと きき  
私の自己紹介ということで、プロフィールを出させていただきました。私の本職、ふだんの仕事は先ほど

しょうかい ほう にほんしほうしえん じょうきんべんごし いま ほう ほんぶ なか  
紹介いただきました法テラス、日本司法支援センターの常勤弁護士でございます。今は法テラスの本部の中

ほうむしつ しつちよう いがい かつどう ねん  
で、法務室というセクションがありまして、そちらの室長をやっております。それ以外の活動として、1年ほどイギ

い けんきゆういん かつどう ねん べんごし しごと なか か そ  
リスに行って研究員の活動をしていたり、これまで15年くらい弁護士の仕事の中では、どちらかというど過疎

ちいき じんこう すく りとう たど にいがた さどがしま あおもりけん なんぶ あた ほうりつじむしょ  
地域、人口が少ない離島、例えば新潟の佐渡島とか、あるいは青森県の南部、この辺りにも法律事務所がご

ざいまして、そちらに派遣されて、全く手元にお金がない、十分に余裕がない方の支援をさせていただいたと

げんざい にほん いしけつていしえん だんたい た あ なか いし  
いうことでございます。現在は、日本意思決定支援ネットワークという団体を立ち上げまして、その中で意思

けつていしえん こうざ いしけつていしえん かいぱつ おこな たちば  
決定支援についての講座や意思決定支援のツール開発を行っている立場でございます。

ほんじつ ごしょうかい いしけつていしえん かいき き だいじょうぶ  
本日は御紹介にとどまりますが、意思決定支援については、1回聞いて、あとは聞かなくても大丈夫というよ

く かわ おも いしけつていしえん じっせんげんぼとう しょうかい  
りは、繰り返していくものかなと思います。意思決定支援の実践現場等の紹介については、こちらのウェブサイ

ごしょうかい どうろく ねが  
トなどでも御紹介しておりますので、よろしければ登録をお願いいたします。

わたし きょう じかん いしけつていしえん きそ かんが かつ しせい  
さて、私は今日のお時間をいただいて、意思決定支援の基礎ということ、考え方、姿勢、こういったものにつ

みな ほんちよう あ まな おも  
いて皆さんと歩調を合わせて学んでいければと思っております。

あらた みな きょう はなし なか いしけつていしえん ことば て みな  
改めて、皆さん、今日のお話の中で、意思決定支援という言葉が出てきますが、これについて、皆さんそれ

かいはく おも あらた いしけつていしえん なに  
ぞれのイメージ、それぞれの解釈があるのではないかと思われます。改めてこの意思決定支援とは何かとい

いっしょ かんが  
うことを一緒に考えていきましょう。

とく さいきん くに かいぎ いしけつていしえん て おお なん き  
特に最近では、国の会議などでも意思決定支援という言葉が出てくる人が多いです。ただ、何となく聞いて

ごほんにん いし そんちよう おも ぶぶん いしけつていしえん にんしき  
おりますと、御本人さんの意思を尊重する、思いやる、こういう部分と意思決定支援がほぼイコールの認識で

ことば <sup>つか</sup> <sup>おお</sup> <sup>きょうつう</sup> <sup>ぶぶん</sup> <sup>ぶぶん</sup>  
言葉が使われていることも多くございます。共通する部分もあればそうではない部分もある、こういったことを

ねんとう <sup>お</sup> <sup>はなし</sup> <sup>すす</sup>  
念頭に置きながらお話を進めてまいります。

ここからは一方的に解説をさせていただくというよりは、むしろ皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

えふ <sup>ごしょうかい</sup> <sup>おも</sup>  
ということで、こちらのFさんのケースを御紹介したいと思ひます。

ちてき <sup>く</sup> <sup>えふ</sup> <sup>ひとつぜん</sup> <sup>いぬ</sup> <sup>か</sup> <sup>うった</sup> <sup>えふ</sup>  
知的しょうがいがあり、グループホームに暮らすFさんは、ある日突然、犬を飼いたいと訴えてきました。Fさ

ん <sup>き</sup> <sup>も</sup> <sup>たいおう</sup> <sup>か</sup>  
の気持ちになったときに、あなただったらどのように対応しますか。このグループホームは、ペットを飼うこと

きんし <sup>じょうきよう</sup>  
を禁止しているという状況でもあります。

みなさま <sup>て</sup> <sup>あ</sup> <sup>わたし</sup> <sup>かんが</sup> <sup>て</sup> <sup>あ</sup> <sup>おも</sup> <sup>さき</sup> <sup>もう</sup>  
ここは、皆様、ぜひ手挙げて、私はこう考えるというところで手を挙げていただきたいと思ひます。先に申し

あ <sup>せいかい</sup> <sup>ふせいかい</sup> <sup>じょうきよう</sup> <sup>ちが</sup> <sup>みな</sup>  
上げておきますが、正解、不正解があるわけではありません。状況によっても違ひますからね。ということで、皆

ばん <sup>ばん</sup> <sup>ばん</sup> <sup>ごしょうかい</sup> <sup>て</sup> <sup>あ</sup>  
さん、1番、2番、3番と御紹介しますので、手を挙げてください。

ばんめ <sup>いぬ</sup> <sup>か</sup> <sup>つた</sup> <sup>せっとく</sup> <sup>わたし</sup> <sup>おも</sup>  
1番目、グループホームでは犬を飼えないよということを伝えて説得をしていく。私だったらこうするなと思う

かた  
方はどれくらいいらっしゃいますでしょうか。——ありがとうございます。

ばんめ <sup>わたし</sup> <sup>ねが</sup> <sup>いぬ</sup> <sup>か</sup> <sup>かんが</sup> <sup>かた</sup>  
2番目、私がグループホームにお願いして、犬を飼えるようにしてもらおう、こういうふう考える方はどれく

らいらっしゃいますか。——ありがとうございます。

さいご <sup>ばん</sup> <sup>しろぬ</sup> <sup>わたし</sup> <sup>ばん</sup> <sup>ばん</sup> <sup>ばん</sup> <sup>ちが</sup> <sup>かんが</sup> <sup>かた</sup>  
最後、3番はあえて白抜きにしていますけれども、私は1番でも、2番でもなくて、3番。違う考え方をすると

かた <sup>うし</sup> <sup>かいじよう</sup> <sup>かた</sup> <sup>て</sup> <sup>あ</sup>  
いう方はどのくらいいらっしゃいますか。——ありがとうございます。後ろ会場の方も手を挙げていただきました

た。

さき <sup>もう</sup> <sup>あ</sup> <sup>せいかい</sup> <sup>ふせいかい</sup>  
先ほど申し上げたとおり、どれが正解、不正解ということではありません。ただ、ポイントはあるんですね。ど

れに手を挙げた方であっても、2つのポイントをこのストーリーでは押さえていただきたいと思っています。

まず、1点目として、この意思決定支援の最初の出発点はどこから始まるのかというところを少し考えてみま

しょう。1つ問いかけて皆さんにしていきたいと思います。Fさんは、犬を飼いたいとおっしゃっているようす

が、本当に犬を飼いたいのでしょうか。犬を飼いたいと書いてあるので、犬を飼いたいと捉えるのが素直かと

は思うのですが、これは意思決定支援はどこに目を向けていくのかというところ、出発点はどこなんだろうとい

うことにも関わる話なのですね。つまり、我々もそうかもしれませんが、自分が言っていることが本当に

自分の心の中で思っていることとは限らないこともある。本当はこう考えているんだけど、でも言葉として

は違った形で出ているなんていうことがあるかもしれないですね。

Fさんは、犬を飼いたいと確におっしゃって、Fさん自身もそう思っているのだけれども、実はこれは手段で

あり、本当の目的は別にあるということが後で分かってきました。実際にFさんとこんなふうに対話したことが

ありますので、少し御紹介をしましょう。

「Fさん、犬を飼いたいとおっしゃっていましたよね」「うん、犬、飼いたい、飼いたい」「そうですね。どんな犬

がいいですか」「うーん、大きいのがいい」「じゃ、ほかに特徴はありますか」「うーん、ワンワン、ワンワン」と。ワ

ンワン吠える大きな犬。「そういう犬が、どこにいたらいいんですか」と聞いたら、窓のほうを指差すんですね。

窓の奥は中庭が広がっています。グループホームは四角くなっていて、廊下が四角、真ん中が中庭で、自分

の部屋から中庭が見えるという位置関係だと思ってください。その中庭のすぐ下を指差すわけですね。つまり、

大きな犬がワンワン吠えて、その犬が自分のすぐ近く、中庭の窓のすぐ下にいてほしい、こういうふうにおっしゃ

るんです。

いっばんてき かんが しろくじちゆう ほ いぬ じぶん へ や ちか  
一般的に考えるとどうですか。四六時中ワンワン吠えている犬が自分の部屋のすぐ近くにいるわけですよ

ね。ちょっと寝られるのかなと心配にもなっちゃうんですけども。

もう一つだけ聞いたんですね。「では、その犬がいると、Fさんにとってどのような良いことがあるのですか」

と聞きましたら、「うーん」と考えて、「逃げていくからいい」と。「何が?誰が?」と聞くと「人が」と言うんです。

人が逃げていくからいいと。

これはどういうことかなというところで、後で職員の方とも会議をしまして、どういうことを意味しているのかなど

考えていたときに、ある職員の方から、もしかするとこういうことなんじゃないかと。ふだん南口の玄関から

北口の勝手口のほうに行くときに、いろんな人が中庭を通っているらしいのです。彼の知っている人も知らな

い人もです。廊下を通るのが普通なのですけれども、ショートカットをするというか、中庭を通ったほうが近い

ので、そこを通る人もいます。そのときにFさんが、ずっと中庭のほうを見ているというのです。しかも、Fさんは

190センチぐらいでとても大柄な方です。その人がずっと中庭を見ていると。そうすると、知らない人から見る

と、何かすごく見られていると思って、Fさんを見てささっと中庭を抜けて行く。こういう状況があるということが

わかりました。そうすると、もしかすると、Fさんは番犬というか、犬を置けば人が逃げていく、つまりそういう人

たちを寄せつけないというか、自分のプライベートな空間を確保したいという思いがあるんじゃないかとい

うことを言われました。

じゃ、例えばこうしてみるとどうかということで、中庭に入るところのドアに貼り紙を貼りました。「できるだけ

廊下を通ってください。プライベートなゾーンなので、あまり入らないようにしてください」という形で。2週間ぐ

らいたってから、もう1回Fさんに会いに行きました。「Fさん、この前、犬を飼いたいと言っていましたよね」「う

ん、言っていた」「今も飼いたいと思っています?」「え? もう犬は要らないよ」と言われたと。こういう話です。

彼の目的はおそらく達成されたのでしょう。

この話をさせていただいた理由は、意思決定支援は、本人から表面的に出ている言葉だけにとらわれてしま

うと、本当の意味で、本人がどう願っているのかを見過ごしてしまう可能性があることを知っていたか

たからです。意思決定支援で大事なことは、まず本人の心からの希望は何だろう、これを探求していくことで

次に2点目のポイントは、支援者めがねについて話を少ししたいと思います。

次のページを見ていただきますと、ある支援者の方はこんなふうに考えているのですね。意思決定支援とい

うのは、周りから見て正しい選択を本人ができるよう導いてあげることであり、こういうふうにとら

だから、グループホームから追い出されちゃうと困るから、ペットは飼えないし、何ならちょっと大きめのぬいぐ

るみでも買って見たらどうかと、こういう妥協案の提示をしようとAさんは思っています。

BさんはBさんで、意思決定支援というのは、本人が言っていることをかなえてあげる、これぞ意思決定支援

ですと、こういうふうにとらえている。本人が犬が飼いたいというのであれば、犬を飼えるようにしてもらおう、

駄目だったら引っ越ししかないねと。

引っ越した後に、やっぱりグループホームがよかったです、本当は戻りたいんですけど言っても、もう空きはない

ですから。でもしょうがないよね、これはあなたの自己責任ですよ、とこういうふうを考える。

このAさん、Bさんは、何となく水と油みたいな感じに思うかもしれませんが、実は2人とも支援者めが

ねというものを付けているという共通点があります。どういことでしょうか。先ほど犬を飼いたいというFさん

のスライドをみてください。まず、犬を飼いたいというのが大前提であって、「犬を飼いたい、だけどこうだよね」

と考えるAさんと、「犬を飼いたい、じゃあ、こうしたらいいんじゃない、でもこれは自己責任だよね」と捉えるB

さん。それぞれ同じFさんを見ているんだけど、違う価値観のフィルターがついている支援者めがねで見

える景色から判断して、何らかの形で本人に介入しようとしている。

支援者めがねというのは、あえて言えば、支援者としてのこれまでの人生経験だとか知識、職業的な義務と

か、こういったものが何層にも積み重なって、同じものを見ても違うふうに見える。しかも、なまじ専門性がある

と自分が正しい、それが正しいんだと思ってしまうものです。そうすると、本人が犬を飼いたいということ

大前提に、でも、私はこう思うから、あなたはこういうふうにしたほうがいいと、よかれと思っていろいろとアド

バイスを始めてしまう。

でも、その支援者めがねをずっとつけていると、本当は本人がどう思っているのか、どう願っているのか、とい

うところをすっ飛ばしてしまうところが、実は意思決定支援を難しくさせてしまっている大きな原因ではないか

とも言われています。

ですので、意思決定支援の出発点としてどこに視点を当てるかという点で、意思決定支援に取り組むことの

難しさは、実は支援者側にもある。こういうことを少し申し上げた上で、障害者権利条約の話にも入ってい

ましよう。

既に皆様、障害者権利条約を学ぶ機会もあったかと思うんですが、ここでは特に大事な概念、Choice &

Controllについて少しお話をします。障害者権利条約は、しょうがいのあるなしに関わらず、自分で自分のこ

とを選択することのできるチャンス、機会、これがすべての人に確保されているということがまず大事です。大

い し け っ て い      ち い      い し け っ て い      ひ び      い し け っ て い      お も  
きな意思決定から小さな意思決定、日々の意思決定というのはあると思うのですけれども、そういったものを

たい せ っ つ      い し け っ て い      か て い      な か      し え ん      う      だ れ      し え ん      う  
大切にしてい。その意思決定の過程の中ではいろいろな支援を受けていてもいいんです。誰だって支援を受

す べ      ひ と      な ん      か た ち      い し け っ て い し え ん      う      し え ん      う  
けています。全ての人が何らかの形で意思決定支援を受けているわけですから、そういった支援を受けなが

じ ぶ ん      じ ん せ い      じ ぶ ん      ひ と      さ さ      う      じ ぶ ん      じ ぶ ん  
らも、自分が人生をコントロールしているんだと。自分がいろんな人の支えを受けながらも、でも、自分で自分

じ ん せ い      し ゅ っ とう け ん      も      し ゅ っ じん こ う      じ ん せ い      あ ゆ  
の人生をコントロールできている、主導権を持って、あるいは主人公になって人生を歩んでいるんだと。こうい

じ っ かん      も      ち ょ い      す あ ん ど こ ん ど ろ ー る      ほ し ょう      し ゃ か い      め ざ      お も  
う実感が持てるようなChoice & Controlが保障された社会を目指していこうというコンセプトがあると思

ます。

さ ま ざ ま      し ょ う へ き      そ ん ざ い      と ら      か た  
ただ、そこには様々なハードル、障壁というものが存在する。いわゆる、しょうがい というものの捉え方、これ

み な      ご ぞ ん      お も      い ま      き の う て き      て      う ご  
は皆さん御存じだと思いますが、今では しょうがい というものは、機能的しょうがい、たとえば「手が動かな

あ し      う ご      し ゃ か い て き      た と      だ ん さ  
い」とか、「足が動かない」とか、そういう しょうがい ではなくて、いわゆる社会的なバリア、例えば段差があ

さ き      す す      ひ と      だ ん さ      か ん が      か た      か  
って先に進めない人がいるとしたら、その段差そのものが しょうがい であるという考え方に変わってきてい

じ ょ き ゃ      せ き に ん      だ ん さ      つ く      し ゃ か い ぜ ん たい      と ら      か た  
ます。そしてその しょうがい を除去する責任は、そのような段差を作ってきた社会全体にある、こういう捉え方

をするわけですね。

い し け っ て い      し ゃ か い て き し ょ う へ き      ぜ ん て い      か ん が      た と      じ ょ う ほう      え  
意思決定についても、あえてそれを社会的障壁があることを前提に 考 えてみると、例えば情報を得ること。こ

ふ だ ん      あ      ま え      ほ ん ら い      は ん だ ん      ひ つ よ う      じ ょ う ほう      え  
れは普段、当たり前に行っていることかもしれませんが、本来、判断のために必要な情報を得ることが

せ い げ ん      せ い や く      ほ ん に ん      し      ま わ      ひ と      し      い  
制限されている、制約されている。本人は知らないけれども周りの人は知っている。だけれどもあえて言わない

じ つ      し ゃ か い て き      し ょ う へ き      と ら      じ ょ き ゃ      て き せ つ      ほ ん に ん  
ということも、実は社会的な障壁と捉えられるかもしれません。それを除去するのであれば、適切に本人にとっ

わ      じ ょ う ほう      つ た      ひ つ よ う  
て分かりやすく情報を伝えていく必要もあるかもしれないですね。

さらに 難し過ぎる情報、いっぱいあり過ぎてははっきりよく分からない、あるいは言葉だけが先走っていて、

実際に経験したこともないものを言われても分からない、誰だってそうだと思います。それもまた社会的障壁と

捉えるならば、それを除去していくための手段として、どんな意思決定支援というものが考えられるか。こうい

う形で考えていただくと、どのような意思決定支援が求められるかがイメージ出来てよいかもしれません。

先ほど、意思決定支援が思いやりと同じような話として捉えられてしまっているという話をしました。もちろ

ん、方向性は間違っていないですけれども、意思決定支援は権利の行使のための重要な手段であるという点

で、思いやりとは違います。あるときは思いやるけれども、あるときは思いやらないという話ではなくて、本人が

自分の権利を使っていくために必要な、社会的障壁を除去していくために必要な様々な行為、支援のあり方

であって、それはいつでもどこでも保障されていかなければならない、国としても保障していかなければなら

ないし、一日の支援の中でもいろんな方が本人の意思決定というものを支えていく、それが当たり前の社会

になっていくことが重要だと。そこでは、支援付き意思決定の仕組みをつくっていかなければいけないとも言わ

れています。

もう1個、ストーリーをお話ししたいと思います。認知症があり、要介護1のBさん。日曜大工が趣味で、

自転車に乗ってよく近所のホームセンターに買い物に行っていました。しかし、事故や途中で道に迷うことを

心配した家族は、ケアマネさんに、鍵を取り上げて自転車を処分したいと相談したんですね。「必要なものは

買ってきてあげるからもうやめて」とBさんに詰め寄ると、「もういい分かった」と言い残してBさんは部屋を出

て行ってしまいました。家族は、Bさんが納得してくれたと喜んでいたのですが、ケアマネさんにとってはBさ

んがとても元気がないように見えたので、こういうストーリーでございます。

みな びー きも かん びー ほんとう  
皆さんはどうでしょうか。Bさんの気持ちになってみたときに、どんなふうに感じるでしょうか。Bさんは本当に

なっとく  
納得したのでしょうか。

とき かたち ひょうげん おも いま われわれ とく こんかい ちようじよ ほん  
この時にですね、あえてこういう形で表現をしたいと思います。もし今、我々が、特に今回でいうと長女が、本

にん よ おも してん ほんにん はなし だいたい かたち たいおう おも  
人にとって良かれと思ってという視点で本人と話をしようとする、大体このような形の対応になると思いま

びー い とちゆう みち まよ しんばい  
す。Bさんが、「ホームセンターに行きたいんだ」「途中で道に迷っちゃうから心配だから、それはやめてほし

じてんしゃ つか い じてんしゃ つか わたし くるま つ  
い。「自転車を使いたいんだよ」と言ってみても、「自転車は使わなくてもいいじゃない。私たちが車で連れ

だいじようぶ だいじようぶ ほんにん ざいりよう えら たの い  
ていってあげるから、大丈夫、大丈夫」となるでしょう。本人が、「ゆっくり材料を選ぶのが楽しい」と言っても、

ざいりよう わたし か いえ なか えら こた ほんにん  
「じゃ、材料だったら私たちが買ってきてあげるから、家の中で選べばいいでしょう」と答える。本人が「いや、

い あと となり の ほん  
でもな、ホームセンターに行った後に、その隣にあるコーヒーショップでコーヒーを飲むのがいいんじゃない」と反

ろん だいじようぶ いえ の  
論してみても、「コーヒーだったら、大丈夫、家でも飲めるから。ヘルパーさんに、いれてもらうことだってできる

めいがら い も いえ  
でしょう。銘柄？グアテマラが良い？そう、じゃ、そのコーヒーショップからグアテマラを持ってきて、それで家でい

いっしょ  
れてもらえばいいじゃないの。一緒でしょう」と。

かたち はなし てんかい わたし しんばい  
こんな形でお話が展開してって、「私たちはあなたのことを心配しているの」、「あなたのために言ってい

ちようじよ ほんにん つた さいしゆうてき ほんにん わ はつげん  
るのよ」と長女が本人に伝え、最終的に、本人の「もういい、分かった」という発言につながったということでご

ざいます。

わたし もう あ かかわ かた だめ い おすすめ  
ここで私が申し上げたいのは、こういう関り方が駄目だとか言っているつもりはないんです。娘さんは、お

よ かた しえんしゃ がわ み しんぞく かた  
しろ良い方なんです。支援者の側から見ると。いろんなケースがあるわけです。そもそも親族の方がいても

ぜんぜんかか しんぞく かた たいりつ ぜんぜん い  
全然関わってくれない。親族の方がいても、すごく対立しているというか、けんかになっちゃって、全然言うこと

は聞かないとか。その中でいうと、これだけ本人のためを思ってやってくれている人というのは、支援者側から見ると、とても大事な存在なんです。

ただ、皆さん、もう1回、犬のことを思い出してもらいたいんですね。恐らく娘さんは、自転車のことをとても気にしています。自転車のことを気にしているから、自転車に乗りたいたと言ったら、「いやいや。」という話になっただけです。でも、本当は何でこの方は自転車にわざわざ乗りたいたのでしょうか。何でわざわざホームセンターに自分で行くのでしょうか。どうして材料をゆっくり選びたいのでしょうか。コーヒー店に一体何があるのか。いろんなことが、すっ飛ばされてしまって、自転車に乗るか乗らないか、これを決めれば意思決定支援だと、それで決まったらそれでいいやと、こういうふうに捉えられていないか。本当はその間にすごく大事なことが詰まっているかもしれないですね。

ということで、改めて意思決定支援の立ち位置ということを申し上げれば、本人が本当に何をどう望んでいるのかということを探求していくとすれば、どんな質問をするようにしましょうか。

「ホームセンターに行きたいんだ」と本人。「ホームセンターではどういうことをされているんですか。どういう楽しみがあるんですか」と聞いてみる。「自転車乗りたい」と本人。「ちょっと危ない」ということが頭によぎるけれどもそれは後でお話をすればいいことで、まずは「ホームセンターと自宅の間にはどういう楽しみがあるんですか? どういう道順で行っているんですか?」なんて聞いてみてもいいかもしれません。

そうすると、本人からこんな答えが返ってきました。「まずは家から友達の家に行くんだよね。友達の家で小一時間話してさ、それから商店街に行くんだよね」と。国立にも商店街がいっぱいありますね。「商店街に行くとサロンに行き、サロンに仲間がいるんだよ。そこでジャラジャラやって、それから河川敷のほうへ行く」と。

「河川敷では子どもたちがスポーツをやっててさ。昔、野球をやっていたから」みたいな話が出てくるかもしれない。「その後、河川敷の下にあるホームセンターに行って材料を選ぶんだよね」という話が出てくるかもしれない。

例えば今のようなお話って、支援者にとっても、とても貴重な情報だったりするわけです。本人が信頼している人たちがいる、何か手伝ってくれるという人たち、仲間がいるかもしれない。本人が昔好きだったスポーツ、もしかしたら、実際にやるかどうかは分かりませんが、見に行きたいという思いがあるかもしれない。実は本人のこれから生活の彩りを豊かにしていくために、とても大事なお話がここで出てくる可能性もあります。

さらに、ゆっくり材料を選びたいんだという話も、「材料を選ぶときにどういうことを考えているんですか？」と聞いてみたら、こんなお話が出ました。「妻がいて、結婚記念日に買った大事な鏡台があるんだよね。その色もちょっと変わっちゃっているから、自分で選んで少しずつ見て、どれが合うかなと見たいんだよね」と、こんな話が出てくるかもしれませんが。本人にとってはとても大事な記憶です。鏡台を直そうとしている過程の中で、もしかすると、亡くなってはいるけれども、心の中で妻と対話をしているかもしれません。いろんなことを話しているかもしれない。周りからは見えないです。だけれども、本人にとってはそれが生きる力になっているかもしれません。

さらに、最後、コーヒーの話です。あなたにとって落ち着ける場所はどんなところでしょうか。コーヒーショップだよ。皆さんどうでしょうか。ルーチン、日課みたいなものはありますか。朝起きて何かをする、夜寝る前に何かをする、お昼ご飯を食べた後に何かをする。別にほかの人に取り立てて言う話でもないんだけど

まいにち あした い きも  
毎日やっている。もしそれを、明日からやめてくださいと言われたらどんな気持ちになりますか。

じつ さき てまえ と ほんにん たの  
実は先ほどの手前のスライドのような問いかけだと、本人からしてみると、いつもとても楽しみにしていたコー

ヒーショップ、なじみの店主がいて、「いつもの」と頼むと、いつものが出てくる、それくらいの関係。いつも読む

ざっし と すわ すわ てんしゅ さいきん はなし  
雑誌を取って、いつも座るところに座って、ゆっくりしていたら店主がやってきて、「最近どう？」なんていう話が

ふ ひとくちの ひどいき べつ ちようじよ  
振られてきたり、そのコーヒーを一口飲んでほっと一息つく。別にどうってことはないです。でも、それが長女の

い かた あした い おれ  
言い方になってしまうと、「もう明日からコーヒーショップに行けなくなるわ、俺。もう、やめなくちゃいけないの

か」と。例えばそんなふうに思ってしまうかもしれません。

けっ むすめ わるぎ い ほんにん トラ かた  
決して娘さんは悪気があって言っているわけじゃないですね。だけれども、本人としての捉え方はそうなって

しまうかもしれない。皆さんもルーチンがある日突然奪われた。そういったことをぜひ想像してみてくださいと

よ  
良いかもしれません。

ということで、このような形で聞いていくと、様々なことが出てくるということでございまして、「本当は何を望

んでいるんだろう？」そういったところを探求していく、その姿勢をもってすれば、質問自体も変わってくるし、本

にん かいとう か おも  
人の回答もまた変わってくると思われます。

うえ じてんしゃ はなし けんとう じてんしゃ こんど の の せんたくし おも  
その上で、自転車の話も検討しましょう。自転車は、今度は乗るか乗らないかの選択肢だけじゃないと思うん

ですよね、これだけのお話が出てきた後であれば。仮に自転車に乗らないとしても、例えば車で行くにして

ほんにん だいじ ざいりょう えら  
も、本人が大事にしているプロセス、ゆっくり材料を選ぶ、それからコーヒーショップ、こういったところをちゃん

ふ うえ か ぎやく じてんしゃ の はなし ほんにん  
と踏まえた上で変えるということもあるかもしれませんし、逆に自転車に乗るといった話になったとしても、本人

なかま  
には仲間がいるわけですね。

なかま ゆうじん かた たと い いっしょ い よう ほんにん なか  
仲間、あるいは、ご友人の方とですね、例えば本人が行くときに一緒に行ってもらうとか。要するに、本人の中

だいじ しょうてん あ だい だい だい だい せんたくし う  
で大事にしているところに焦点を当てることによって、第1、第2、第3、第4と、ほかの選択肢が生まれてくる

かのうせい い し けて い し えん くら し ろ  
可能性もあるわけですね。ですので、意思決定支援というと、ゼロか100か、黒か白かみたいな、そのくらいに

とら ていねい ほんにん なか せんたくし あら  
捉えられることがあるのですけれども、丁寧にやっていくことによって、本人の中にいろんな選択肢がまた新た

う じたい い し けて い し えん だいじ とら かた おも  
に生まれてくるということ自体が、意思決定支援としてとても大事な捉え方かなと思っています。

さて、こういうことで、それをやっていくためには、支援者めがねがあることに気づき、そしてそれを外そうとす

どりよく ひつよう じぶん き ひと き  
る努力が必要です。まず、自分がそのめがねをつけていることに気づかない人もいますからね。そこにまず気

はず ひどり はず かた はず まわ つ こ  
づく。外そうとすると、1人では外れないんですね。すごく固くて外れない。周りから突っ込んでもらう。「あなた、

いま し えん し ゃ い ほんとう  
今、もしかすると支援者めがねをかけているかもよ」なんていうふうに言われて、「あっ、そうか、本当だ、こうい

み き  
うふうに見えるわ」と気づくということもあるわけですね。

い し けて い し えん し えん だいじ い ほんにん  
ですので、意思決定支援はチーム支援が大事だと言われます。それは、本人のためだけではなく、むしろ

し えん し ゃ どう し たが い み けんせい あ じぶん じしん し えん し ゃ そんざい き  
支援者同士がお互いにある意味での牽制をし合うことによって、自分自身の支援者めがねの存在に気づい

と あた おも  
たり、めがねを取るきっかけを与えるためでもあるかと思えます。

はなし すこ むずか はなし い し けて い ぜんたいぞう とら  
さて、ここまでお話をしたことについて、少しだけ難しい話をしていきます。意思決定については全体像を捉

ほんにん き わたし き き ぜんたい とら じぶん き  
えたときには、本人が決める、私が決めるか、あなたが決めるか。全体で捉えてですよ。自分が決められない

まわ ひと うご い し けて い とら ぜんたい じぶん き  
ときに周りの人が動いていくということを意思決定と捉えるならば、それは全体としては自分が決めるか、ほか

ひと き おも  
の人が決めるかということになると思うんですね。

い し けて い し えん い ち はなし めいかく さき  
では、意思決定支援はどこに位置する話ですかということは、明確にしておきたいのですね。先ほど、ずっと

「支援付き意思決定」の話をししましたけれども、意思決定支援というのは、もともとの語源をたどると、いわゆる

支援付き意思決定、さらに英語に戻していくと、Supported Decision-making。Supported Decision-

makingが支援付き意思決定という呼び方で、日本に入ってくるときに、意思決定支援となっていたと。

じゃ、決定の主体、誰が決定するのかということをとらえると、もともと支援を受けながら決めていくのは誰だ

と。本人ですよね。だから、本人自身が、自分が自分自身の思いで決めていく、それをあれこれ支える活動が

本来的な意思決定支援というものの考え方だと思うんですね。

ただ、これがちょっと誤解が生じかねないのは、「日本語で言う意思決定支援って誰が主体ですか」というこ

とを考えていくと、支援をするのは支援者ですよね。だから、「支援者が意思決定支援する」と、そのまま捉え

ると、じゃ、本人さんが決められないときに周りが決めて差し上げることだって意思決定支援じゃないですかと

いうふうにも思っちゃうんですね。でも、それが混ぜこぜになっていくと、先ほどの最善の利益、良かれと思っ

との視点が、意思決定支援の領域にまでいろいろ入り込んでしまうということがあるんですね。いわゆる

最善の利益ということを全く否定しているわけではないですけれども、それは本来的には本人さんがどうして

も意思決定、意思確認が難しいときの最後の手段として、第三者が動くときの考え方として使われるものと

とらえています。

したがって、意思決定支援の領域においては、その最善の利益という考え方は使われない、使われるべきで

はないと言われています。なぜかというのは、後でまたやります。

一番危険なのは、混ぜるな危険という表現をしますけれども、代行決定、つまり周り、第三者が決めていく

領域を超えて、本人自身が決めていく領域においても最善の利益の考え方がどんどん使われていくことにな

ると、本人が決めた、と周りは言うんだけど、実は周りから、あなたこうしなさい、ああしなさいと言われた

結果として、「もういい、分かった」と本人が言ったところを、本人の意思、自己決定ですよと捉えられてしま

う。でも、本当は周りが決めているんですよ。でも、本人が決めたことにされてしまうというのが非常に危うい、

というところがあるので、まずはそのこの区別をしっかりとすることが大事ですよと申し上げたいと思います。

残り20分程度だと思しますので、少しここからはプロセスについてお話をしてまいります。

ここは、先ほどから申し上げていたところの繰り返しになりますので、全てを解説しなくてもいいのかなと思っ

ています。意思決定支援のことで我々がまず考えるときに、どの意思決定が対象なんですかとよく聞かれる

んですけども、ここに書かれているとおり、いろんな意思決定のガイドラインがあるんですけども、

共通項をたどったら、結局こうなりました。いつでもどこでも意思決定がある。いろんな意思決定があるわけ

で、日々の意思決定、何を食べる、何を着るといったところから、大きな意思決定、社会的な決定、家を買うとか、

例えば医療、手術を受けるだとか、そういったところまでいろんな意思決定があって、それぞれのガイドライン

が対象としている分野はもちろん違いますけれども、でも、共通するのは、どれか1つの意思決定だけに関わ

ればいいという話ではないということなんです。

ただ、そうすると1人じゃ到底出来ないんですよ。いつでもどこでも本人にずっと付き添って、全部あらゆる

意思決定を支援するということは、たとえ家族であっても無理だと思います。だから、みんなで一緒に関わら

ねという話が当然出てくるわけですね。そのときの視点というのが、ここまで30分ちょっとお話をしてまいりま

した「本人の視点から考える」ということです。別にこのスライドだけ出して、本人の視点から考えるのが

大事なんですよと言えば、さっきの30分とか40分の話をしなくてもよかったのかもしれないんですけども、

ここでやっぱり、ぜひ我々が理解していく必要があるのは、いかにその本人の立ち位置だとか、視点に立つことが難しいのかということです。それを理解しておかないと、私はあなたの立場に立っているよと言いながら、全然立っていないことになったり、その人自身がそれに気づいていないこともあるわけです。だから、本人の視点から考えるということは大事だし、そこに立つことの難しさ、支援者めがねを外すことの難しさも同時に理解する。だからこそ、一人で意思決定支援をするんじゃなくて、みんなが意思決定支援に関わってくることになります。

また、みんなで関わっていくときには、意思決定支援は何だとなったときに、Aだ、Bだ、Cだ、Dだ、Eだと全部違うイメージになってしまうと、支援の方向性がばらばらになってしまいますので、共通認識を持ってやっていくためにも、ガイドラインという共通の土台があることをみんなが理解をして、共通の足並みをまずはそろえてやっていこうねということが重要なことだと思います。

ここで映像も少し見ていただきましょう。チーム支援が大事とよく言われるのですが、チームというのはどういう人たちが本人と一緒にいるかによって、大分、本人の気持ちも違って来ようにも思います。ここに挙げた、おそれ、自己抑制、あきらめといった感情について、端的にお話をしてくださっている方がいます。では、映像を流しましょう。

#### 〔映像〕

【水島氏】本当はこうしたいなという思いがあるんだけど、でも、これを言っちゃうとちょっとね、というお話があったと思います。

我々もそうだと思うんですけど、例えば自分の上司にストレートに物事を言えるかということ、いや、ちょっと

など。友人であっても、大体言いたいことは言えるけれども、こういうときは難しいなというのもあるかもしれない

い。だけれども、特に支援者という方々、左側にちょっとあえて専門性のある人たちという形で位置づけてい

ますけれども、そういう専門性のある方々、支援者という方々はもちろんとても大事な存在ではあるんです。そ

の人の生活の基盤を支えていく、場合によっては権利侵害から回復してくださる、そういった大事な存在では

あるんだけれども、やっぱりどうしても、さっきの支援者めがねの話になるんですね。

危機的な状況に対して介入するというのは得意だとして、しかしながら、その状態が落ち着いた後も、「前み

たいなことになったらまずいから」、あるいは、「今ここの生活のほうが安心でしょう」と。こういう形で、どうし

ても本人さんの本当はこうしたいという思いがあるけれども、こっちへどうぞという形で引きずっていつてしま

うことが、知らず知らずのうちにあるわけです。

そうすると、本人からすると、先ほど自転車に乗りたいという話も、「もう良い。分かった。」とは先ほどのビデ

オでは山田一郎さんがそう言っていましたけれども、実は、この方は娘夫婦と同居している方なんですね。だ

から、世話になっている、わがママが言えない、あれだけ強く言われたらそう言うしかないというふうに思ってい

るかもしれないですよ。

こういう思いを、本当に思っていることは、なかなか支援者の方がどれだけスキルを持って、どれだけ信頼

関係を築いたとしても、やっぱりたどり着けない部分もある。ここは限界としても意識をした上で、チームで支

えていくということであるならば、自分自身はもしかすると聞くことのできる限界はあるかもしれないけれども、

あえて本人の側に立って、本人の視点で本人と一緒に思いを伝えていける、そういった支持者という方々を本

人のチームに入れていく、こういう発想を持っていくことも大事なのかなと思います。今日はあまり触れる時間



さいご いし けっていしえん だいこうけってい ほんにんじしん き さき はなし ほんにんじしん  
最後に、意思決定支援と代行決定の話です。本人自身が決めることを支えるという話と、本人自身がどうして

き がた き だいさんしゃ うご はなし  
も決め難い、しかしながら、決めなければならないときに第三者がどういうふうに動くかという話です。ガイド

なか いし けっていしえん ふ こうけんじむ  
ラインの中には意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドラインというものがあまして、そこではこのような

ひょうげん  
表現をしています。

ばん すべ ひと いし けってい ちから すいてい ほんにん き ちから おも あ まえ  
1番、全ての人には意思決定の力があることが推定される。本人には決める力がある。思いがある。当たり前

だいぜんてい しゅっぱつ ひと いし けってい ちから かたがた  
ですけれども、そこを大前提で出発しましょう。どんな人だって意思決定の力があるはずだ。でも、その方々に

さき もう あ しゃかいてき しょうへき こんど しゃかいてき  
は、もしかすると先ほど申し上げた社会的な障壁というものがあるかもしれません。であれば、今度は社会的

しょうへき じょきょ ほんにんみずか いし けってい しょうへき じょきょ  
障壁を除去していくために、本人自らが意思決定をしていけるようになるために、その障壁を除去していくた

さまざま とりくみ いし けっていしえん つ かって ほんにん おも な  
めの様々な取組をやっていこう。そのような意思決定支援を尽くしていなければ、勝手に本人の思いは無いと

き だいさんしゃ き はなし だい げんそく  
決めつけて、第三者が決めるということをしてはいけないよ、というお話が第2の原則になります。

いし けっていしえん おこな あ ほんにん しんらいかんけい ひつよう しんらいかんけい え  
さらに、この意思決定支援を 行うに当たっては、もちろん本人との信頼関係が必要です。信頼関係を得て

ほんとう さまざま みなさま ごぞん いちばんだいじ おも  
いくのは本当に様々なアプローチがありますよね。皆様はよく御存じかもしれません。一番大事だなど思うのは、

ほんにん し さき かくど ほんにん す きら かちかん  
本人のことを知ろうとすること。先ほどのフォロワーが、いろいろな角度から本人の好き嫌い、価値観、こういっ

し とりくみ けいぞくてき おこな だいじ なか ほんにん  
たものを知っていこう、こういう取組を継続的に 行っていくことがまずは大事かと。さらには、その中で本人が

ちょうし ばしょ おも わ  
調子がいいときと、そうでないとき、好みの場所、いろいろあると思うんですね。そういったことも分かってくるか

かんきょうせいび どだい いし けいせい じぶん おも  
もしれないですね。環境整備というやつです。それから、それを土台として、意思の形成、自分の思い、もやもや

かた だんかい じょうほう わ つた りかい  
としたものを固めていく段階ですよね。そのときには情報を分かりやすくお伝えする、理解ができやすくする。

ばあい たいけん じぶん おも まわ かた いっしょ  
場合によっては体験もしながら。そして、自分の思ったことを、周りの方も一緒になってサポートする。こういった

い し ひょうめい い し じつげん かたち  
ことが意思表示、意思実現という形にもつながっていくわけです。

じつげん なん い し けってい し えん  
実現のところも、サンタクロースみたいに何でもかんでもやってあげることが意思決定支援ではありません

い し けってい さき い し けってい つづ い ほんにん ほうこうせい い  
せん。意思決定の先も、さらに意思決定は続くわけです。あえて言うならば、本人が、こういう方向性で行こう

おも いっしょ い い たびじ  
かなんと思っているところに一緒について行って、あっち行ったり、こっち行ったりするという旅路というか、ジャー

いっしょ あゆ かってい なか  
ニーとでもいうんでしょうか。そこに一緒になって歩む。その過程の中で、やっぱりやめたとか、こっちにしよう

われわれ  
かなんとか、それはあってもいいし、我々だってあるわけです。うまくいった、いかなかった、こういうことだってある

じたい つぎ い し けってい ざいりょう い し けいせい  
わけです。でも、それ自体がまた次の意思決定の材料、意思形成にもつながっていくなんていうこともあるか

もしれません。

い し けってい し えん げんそく ぼんめ ふごうり み けってい せんちよう  
ということで、意思決定支援の原則としての3番目は、不合理に見える決定も尊重されるべきだと。これはよく

ぐこうけん い ぐこう なん まわ き  
愚行権と言われますけれども、その人にとっては愚行でも何でもないわけであって、周りがそういうふうに関

かん わたし ことば す だれ かちかん  
つけているような感じがして私はあまりこの言葉は好きじゃないのですけれども、誰もそれぞれの価値観が

じぶん おも きほんてき じゃま はなし  
あって、自分なりにこれがいいなと思ってやっているということを基本的には邪魔しないでという話です。

げんかい なん ぜんぶゆる わたし すべ きょうりよく  
もちろん限界もあるわけです。何でもかんでも全部許される、私たちが全て実現に協力できるというわけに

たと はんざいこうい てつだ てつだ  
もいかないというものもあるわけです。例えば犯罪行為をやりたいと。あなた手伝って、と手伝ってしまうとほう

じょ つか いてい げんかい げんかい  
助で捕まっちゃいますね。そこはできないわけです。だから、一定の限界はある。だけれども、その限界をあまり

した ひ す こんど ほんとう ほんにん おも せいやく  
にも下に引き過ぎると、今度は、本当は本人がやりたいなと思っていたことをどんどん制約していくことにもな

じゅうだい えいきょう ほんとう ぼめん がいどう いな  
るのす。重大な影響があるかどうかについて、本当にそのような場面に該当するか否かについては、しっかり

ごんみ ひつよう おも  
と吟味をしていく必要があるんじゃないかと思ひます。

だい げんそく だいこうけつてい いち  
あとは、第4の原則は、このガイドラインでは代行決定と位置づけられていますが、ほかのガイドラインでは、

ほんにん いし けつてい えんちよう たら かんが かつ ほんにん いし かくにん  
本人の意思決定の延長と捉えるような考え方もあります。どうしても本人の意思は確認ができない。だけれど

き さ せま ばめん ほんにん いし すいてい しょうがいしゃ  
も、決めなければならないタイミングが差し迫っている。そのような場面で本人の意思を推定する、障害者

けんりじょうやく いし せんこう もと さいぜん かいしゃく い ひつよう  
権利条約でいえば、意思と選好に基づく最善の解釈と言ったりもしますけれども、そういったことが必要な

ばめん ぜんぜんし ひと ほんにん いし すいてい  
場面もあります。だけれども、これも全然知らない人が本人の意思を推定できるわけがないんです。ふだんの

いし けつていしえん つ かつ ほんにん なに す きら かつ かん も  
意思決定支援の積み重ねがカギなんです。本人は何が好きで、どんなことが嫌いで、どういう価値観を持って

い かつ ばめん ほんにん せんたく  
いて、どういう生き方をしていて、この場面だったら、きっと本人はこういうような選択をするんじゃないかという

つ あ すいてい おも  
ところまで積み上げがなければ推定なんかできないと思ひます。

いし けつていしえん め ぜんぶすいてい あ すいそく  
だからこそ、いきなり意思決定支援を抜きにして、全部推定でいきましょうというのでは、当てずっぽうの推測

いし けつていしえん さいしよ じゅうよう おも  
になってしまいますから、やはり意思決定支援が最初にあるということが重要かと思ひます。

だいこうけつてい げんそく かつしよ こんかい かいせつ おも さいしゅうしゅだん と  
あとは、代行決定の原則の箇所になるので、今回あまり解説してもどうかなと思ひますが、最終手段を取る

ひつよう ばめん ほんにん さいぜん りえき かんが かつ ほんにん さいぜん  
必要がある場面では、本人にとっての最善の利益という考え方があります。そして、本人にとっての最善の

りえき もと だいこうけつてい と しゅだん ばあい ひつようさいしゅうげんど  
利益に基づく代行決定は、ほかに取りることができる手段がない場合に必要最小限度でやるということになり

いし けつてい こべつ かんが ひつよう ぜんばんてき ほんにん のうりよく ここ いし  
ます。そして、意思決定というものを個別に考えることが必要で、全般的な本人の能力ではなく個々の意思

けつてい いし けつていのうりよく かんが あらた べつ いし けつてい きかい だい  
決定ごとに意思決定能力を考えていくので、また改めて別の意思決定の機会がめぐってきたときには、第1

げんそく もと こうけん じ む ばあい ぜんたい ひょうげん  
の原則に戻っていく。このようなことを後見事務ガイドラインの場合には全体として表現をしているということ

きょう かいせつ お おも  
になります。今日はここはあまり解説せずに終わりたいと思ひます。

さいご えいぞう み お おも  
最後に、1つだけ映像を見て終わりにしたいと思います。

えいぞう  
〔映像〕

みずしまし わたし ほうこく いじょう  
【水島氏】私の報告は以上とさせていただきます、これがまとめということでございます。

さんこうぶんけんどうとう の ごさんしょう いじょう  
あとは、参考文献等々を載せておきましたので、よろしければ御参照ください。以上です。ありがとうございます。  
した。

はくしゅ  
(拍手)

そ ね かいちよう みずしませんせい い し けっていしえん きほんてき かんが かた はな  
【曽根会長】水島先生、どうもありがとうございました。意思決定支援の基本的な考え方についてお話し  
ただきましたけれども、なに ごしつもん て あ  
いただきましたけれども、何か御質問がありましたら手を挙げてください。

いのうえいん わたし  
【井上委員】私のルーチン。ダイソー、ドラッグストア(クリエイト)、メイクアップ、キャラクター、バスボールを  
み の か いえ  
見たいです。コーヒーを飲もうよ。コーヒーをコンビニで買いたい。クリームのモイヤーのラックを買いたい。「家  
でいれなよ」と言ってほしくないです。はなし むずか いや い  
話が難しかったです。かわいそうは嫌です、言ってほしくないです。  
いじょう ほそく えふ ほ いぬ けん じんけん まも ばいの いえ  
以上です。補足があります。Fさんが欲しいのは、犬。しゅうどう犬、ドッグ。人権も守る。コーヒーを1杯飲む。家  
でいれなよ、悪いです。「3時間ダイソーは長過ぎだよ、急げ」、やめてほしい。以上です。

はなし いのうえ あいだ いいんちよう いっしょ あそ い  
ダイソーの話、していいですか?井上さんは、この間、委員長さんと一緒にダイソーに遊びに行った、と。

じかん きん てんぼ み まわ じかん けっこうなが わたし おも  
2時間ぐらいて、100均1店舗を見て回って2時間というのは結構長いと私は思うんですけれども、それで

なかま じかんいのうえ い ずいぶん  
仲間うちで、こうこうこうしたら2時間井上さんはダイソーにいたんだってと言ったら、みんなに、それは随分い

けっこうも あ ごじつ き かいごしゃ いそ い いや はな  
たねと結構盛り上がり、後日、聞いたら、ダイソーで介護者に急げと言われた、嫌だったということをお話され

ば いそ い い じかん  
て。その場では急げとか、もう行くよとか言われていないんだけど、みんなに2時間ダイソーにいたんだっ

てと言われたのが、<sup>い</sup>急げ急げ<sup>いそ いそ</sup>と言ってほしくない、<sup>かいごしゃ</sup>介護者に<sup>じぶん</sup>そういうふう<sup>じかん</sup>に自分が<sup>みせ</sup>2時間<sup>い</sup>お店にいたことを言わ  
れたくない<sup>けっこうい</sup>ということを、結構<sup>い</sup>言われています。そういうところ<sup>い</sup>です。

コーヒーショップで、<sup>びー</sup>Bさんが<sup>いっぶく</sup>コーヒーを一服<sup>はなし き</sup>すると話を<sup>じぶん いえ</sup>聞いて、自分も家<sup>やす</sup>でいれた<sup>かいごしゃ</sup>ほうが安<sup>い</sup>いよと介護者に  
言われた<sup>けいけん</sup>経験がある<sup>いや</sup>ので、それは嫌<sup>はなし</sup>だという話<sup>い</sup>です。

<sup>みずしまし</sup>【水島氏】 ありがとうございます。

<sup>そね かいちよう</sup>【曾根会長】 ありがとうございます。やっぱり、<sup>あと</sup>あの後<sup>い</sup>、いろいろ言われた<sup>いや</sup>のが嫌<sup>い</sup>だったんですね。

<sup>いのうえいん</sup>【井上委員】 うれしかった。ダイソー<sup>い</sup>行ったよ。

<sup>そね かいちよう</sup>【曾根会長】 ダイソーへ<sup>い</sup>行きましたよね。

<sup>いのうえいん</sup>【井上委員】 行ったよ。

<sup>そね かいちよう</sup>【曾根会長】 2時間<sup>じかん わき お</sup>、脇<sup>えら か</sup>に置いてある<sup>あいだ</sup>ポーチ<sup>たの</sup>を選んで買った<sup>い</sup>んですね。その間<sup>い</sup>ずっと<sup>い</sup>楽し<sup>い</sup>そう<sup>い</sup>で、ダイソー<sup>い</sup>で2

<sup>じかんの</sup>時間<sup>おも</sup>楽しめる<sup>い</sup>のはすごい<sup>い</sup>なと思った<sup>い</sup>んです。

やっぱり<sup>じかん</sup>2時間<sup>かんが</sup>いろいろ考<sup>さいご</sup>えたり<sup>てん き</sup>とかして、最後<sup>い</sup>、1点<sup>い</sup>に決<sup>い</sup>められた<sup>い</sup>という<sup>おも</sup>か、これにしよう<sup>い</sup>と思<sup>い</sup>えた<sup>い</sup>んですよ

ね。だから、<sup>い</sup>意思<sup>い</sup>決定<sup>い</sup>って<sup>い</sup>時間<sup>い</sup>がかか<sup>い</sup>る<sup>い</sup>んだ<sup>い</sup>な<sup>い</sup>と思<sup>い</sup>った<sup>い</sup>んです<sup>い</sup>ね。

でも、<sup>あいだ</sup>その間<sup>い</sup>の時間<sup>い</sup>、<sup>い</sup>井上<sup>い</sup>さん<sup>い</sup>にと<sup>い</sup>って<sup>い</sup>は<sup>い</sup>す<sup>い</sup>ご<sup>い</sup>く<sup>い</sup>楽<sup>い</sup>し<sup>い</sup>か<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>です<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>ね<sup>い</sup>。楽<sup>い</sup>し<sup>い</sup>そう<sup>い</sup>で<sup>い</sup>した<sup>い</sup>。

<sup>いのうえいん</sup>【井上委員】 楽し<sup>い</sup>かったです<sup>い</sup>。

<sup>そね かいちよう</sup>【曾根会長】 <sup>きちよう</sup>という<sup>けいけん</sup>貴重な<sup>わたし</sup>経験を<sup>けいけん</sup>私<sup>い</sup>も<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>せて<sup>い</sup>た<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>き<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>した<sup>い</sup>。そ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>い<sup>い</sup>う<sup>い</sup>経<sup>い</sup>験<sup>い</sup>を<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>せて<sup>い</sup>た<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>い<sup>い</sup>て<sup>い</sup>、あ<sup>い</sup>り<sup>い</sup>が<sup>い</sup>と<sup>い</sup>う<sup>い</sup>ご<sup>い</sup>ざ<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>した<sup>い</sup>。

あとは、<sup>い</sup>コー<sup>い</sup>ヒー<sup>い</sup>を<sup>い</sup>お<sup>い</sup>う<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>で<sup>い</sup>飲<sup>い</sup>める<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>ゃ<sup>い</sup>な<sup>い</sup>い<sup>い</sup>と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>わ<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>嫌<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>です<sup>い</sup>ね<sup>い</sup>。井<sup>い</sup>上<sup>い</sup>さん<sup>い</sup>は<sup>い</sup>コー<sup>い</sup>ヒー<sup>い</sup>が<sup>い</sup>大<sup>い</sup>好<sup>い</sup>き<sup>い</sup>。だ<sup>い</sup>か

ら、ダイソーに行ったとき、アイスコーヒーを買って、帰りに飲みました。

【井上委員】 コーヒー、好きです。

【曽根会長】 私も好きです。

【井上委員】 ポーチは投げないです。大事なものは投げないです。

【曽根会長】 大事にしているんですね。

水島さんの話で何か御質問とかはありますか。

【芳賀委員】 今、水島先生のお話を聞いたんですけども、支援する人がとても大変なんじゃないのかなど。

自分は支援される側なんですけれども、話を聞いていたら、支援する人はこれを全部やっていたら大変だなと

おも  
思いました。

【林大樹委員】 今日、支援付き意思決定という用語を初めて知って、ちょっとおもしろかったんですが、この

Supported Decision-making という英語はもともとあって、それを日本語に翻訳するときに、意思決定

支援と訳して、それが定訳みたいになっていたということですか。

【水島氏】 いろんな説はあるのですが、ただ、意思決定支援という文脈をたどっていったときに、

本来的には支援付き意思決定というところが出発点になるという考え方に行きつくのかなと思っています。

【林大樹委員】 支援付き意思決定というと、意思決定の主体が本人だということがよく分かるので、いい

ことば  
言葉だと思いました。

【曽根会長】 意思決定支援の主体が支援者になっていますから、ちょっと誤訳なのかなと私は思うんですけ

れども。

では、研修は以上で終わりにさせていただきます。水島先生、どうもありがとうございました。(拍手)

今、7時50分ですので休憩します。8時再開でお願いしたいと思います。

(休憩)

【曾根会長】 それでは、時間になりましたので再開したいと思います。

ここからは、第2回の会議の振り返りということで、第1回は川端さんに来ていただいて研修をみんなで受け

ました。第2回は実質的な最初の会議、皆さんとの意見交換だったんですけども、そのことを振り返って、少

し今後の会議の持ち方について考えたほうがいいのではないかと感じておりまして、最初に井上さんから、こ

の会議の進め方について御意見があるということですのでお願いできたらと思います。よろしく願います。

【井上委員】 権利擁護の委員会が難しいです。委員さんの話が分からないです。委員さんの名前が分から

ないので、知りたいです。お茶会をしたいです。補足があります。

井上さんが、今回、皆さん初めてだと思うんですけども、初めて会う委員さんと話をしていくというのは

なかなかまず顔と名前も分からないし、なかなか覚えるのが難しいということと、議題自体が難しくてなか

か発言するのが難しく感じるということで、まずは委員さん、お互いのことを認識するために、お茶を飲みなが

ら小さいグループで自己紹介をしたり、お話をしたりする時間を持ってはどうかという話です。

【曾根会長】 権利擁護の会議で井上さんが委員として入ってくださっているのに、井上さんが全く内容が

理解できなくてどんどん進んでしまうというのは、この会議そのものの意味もどうなんだろうというふうに私も

感じる場所がありまして、何か工夫ができないかなとは感じています。井上さんからは、最初に少し小さいグ

ループでお茶を飲んでお互いのことを少し知り合って、それで会議をしたらどうかという御提案があったんで

すけれども、<sup>みな</sup>皆さんから、<sup>いのうえ</sup>井上さんも含めて、<sup>ふく</sup>みんなで<sup>かいぎ</sup>会議を進めていくにはどうしたらいいかという<sup>ごいけん</sup>御意見を  
いただけたらと思<sup>おも</sup>います。いかがでしょうか。

【事務局】<sup>じむきょく</sup>まず、<sup>いま</sup>今、<sup>いのうえいん</sup>井上委員の<sup>ていあん</sup>提案をお聞かせいただきました。この<sup>いいんかい</sup>委員会の<sup>ぜんだん</sup>前段に、<sup>わたし</sup>私と<sup>そ</sup>曾根<sup>かいちゆう</sup>会長で  
<sup>いのうえいん</sup>井上委員と<sup>じっさい</sup>実際に<sup>すす</sup>進め方を<sup>かた</sup>どうして<sup>はな</sup>いくべきかという<sup>あ</sup>ことを<sup>けっか</sup>話し合<sup>いま</sup>った結果が<sup>て</sup>今こ<sup>う</sup>う<sup>ふう</sup>に出ているわけ  
ですけれども、<sup>とうじしゃ</sup>これまで<sup>かた</sup>当事者の方が<sup>さんか</sup>参加できるように<sup>ちいきふくしけいかく</sup>地域福祉計画で<sup>さまざま</sup>すとか、<sup>かいぎ</sup>様々な<sup>たど</sup>会議で、<sup>たど</sup>例えば<sup>ルビ</sup>を  
<sup>ふ</sup>振るとか、<sup>いま</sup>今、<sup>まえ</sup>前で<sup>ようやくひっき</sup>やっています<sup>じぜん</sup>要約筆記<sup>かいぎ</sup>であるとか、<sup>しりよう</sup>事前に<sup>じむきょく</sup>会議の資料を<sup>べんきよう</sup>事務局として<sup>とりくみ</sup>勉強する<sup>と</sup>という<sup>と</sup>取組  
はず<sup>と</sup>として<sup>き</sup>きました。

<sup>こんかい</sup>ただ、<sup>い</sup>今<sup>し</sup>回の<sup>い</sup>意思<sup>けんりよう</sup>決定<sup>ごしえん</sup>支援<sup>けんり</sup>権利<sup>ごしえん</sup>擁護<sup>しんぎ</sup>支援<sup>かい</sup>審議<sup>かい</sup>会<sup>かい</sup>です<sup>い</sup>ので、<sup>い</sup>意思<sup>し</sup>決定<sup>い</sup>支援<sup>い</sup>という<sup>い</sup>ものを<sup>い</sup>どう<sup>い</sup>や<sup>い</sup>って<sup>い</sup>く<sup>い</sup>べき  
<sup>しえん</sup>か。<sup>い</sup>支援<sup>い</sup>付き<sup>い</sup>意思<sup>い</sup>決定<sup>い</sup>であ<sup>い</sup>たり、<sup>い</sup>意思<sup>い</sup>決定<sup>い</sup>支援<sup>い</sup>です<sup>い</sup>けれども、<sup>い</sup>どう<sup>い</sup>や<sup>い</sup>って<sup>い</sup>く<sup>い</sup>べき<sup>い</sup>か<sup>い</sup>という<sup>い</sup>会<sup>い</sup>議<sup>い</sup>を<sup>い</sup>や<sup>い</sup>った<sup>い</sup>際  
<sup>とうじしゃ</sup>に、<sup>と</sup>当事者<sup>の</sup>が<sup>の</sup>取り<sup>の</sup>残<sup>の</sup>されて<sup>の</sup>しまう<sup>の</sup>よう<sup>の</sup>な<sup>の</sup>会<sup>の</sup>議<sup>の</sup>を<sup>の</sup>や<sup>の</sup>った<sup>の</sup>結果<sup>の</sup>の<sup>の</sup>「<sup>の</sup>意思<sup>の</sup>決定<sup>の</sup>支援<sup>の</sup>は<sup>の</sup>こ<sup>の</sup>う<sup>の</sup>です<sup>の</sup>」<sup>の</sup>と<sup>の</sup>出<sup>の</sup>す<sup>の</sup>のは、<sup>の</sup>事<sup>の</sup>務<sup>の</sup>局<sup>の</sup>と  
<sup>な</sup>しても<sup>な</sup>やはり<sup>な</sup>ち<sup>な</sup>よ<sup>な</sup>っと<sup>な</sup>な<sup>な</sup>かなか<sup>な</sup>納<sup>な</sup>得<sup>な</sup>でき<sup>な</sup>ない<sup>な</sup>という<sup>な</sup>のは<sup>な</sup>お<sup>な</sup>か<sup>な</sup>しい<sup>な</sup>です<sup>な</sup>けれども、<sup>な</sup>事<sup>な</sup>務<sup>な</sup>局<sup>な</sup>と<sup>な</sup>して<sup>な</sup>も<sup>な</sup>う<sup>な</sup>少<sup>な</sup>し<sup>な</sup>や<sup>な</sup>り<sup>な</sup>よう  
<sup>ぜん</sup>がある<sup>かい</sup>かな<sup>かい</sup>と、<sup>かい</sup>前<sup>かい</sup>回<sup>かい</sup>の<sup>かい</sup>会<sup>かい</sup>議<sup>かい</sup>で<sup>かい</sup>も<sup>かい</sup>感<sup>かい</sup>じ<sup>かい</sup>て<sup>かい</sup>は<sup>かい</sup>い<sup>かい</sup>た<sup>かい</sup>と<sup>かい</sup>こ<sup>かい</sup>ろ<sup>かい</sup>です<sup>かい</sup>。

<sup>すす</sup>これも<sup>かた</sup>進<sup>いま</sup>め方を、<sup>いま</sup>今<sup>とうじしゃ</sup>までは<sup>いん</sup>どちらか<sup>いん</sup>という<sup>じむきょく</sup>と<sup>はな</sup>当事者委員<sup>あ</sup>と<sup>く</sup>事務局<sup>き</sup>で<sup>き</sup>話<sup>き</sup>し<sup>き</sup>合<sup>き</sup>って<sup>き</sup>工<sup>き</sup>夫<sup>き</sup>して<sup>き</sup>決<sup>き</sup>めて<sup>き</sup>きた<sup>き</sup>と<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>ろ<sup>き</sup>なん  
ですけれども、<sup>こんかい</sup>せ<sup>けん</sup>っ<sup>けん</sup>か<sup>けん</sup>く<sup>けん</sup>今<sup>けん</sup>回<sup>けん</sup>、<sup>けん</sup>権<sup>けん</sup>利<sup>けん</sup>擁<sup>けん</sup>護<sup>けん</sup>支<sup>けん</sup>援<sup>けん</sup>審<sup>けん</sup>議<sup>けん</sup>会<sup>けん</sup>という<sup>けん</sup>形<sup>けん</sup>で、<sup>けん</sup>意<sup>けん</sup>思<sup>けん</sup>決<sup>けん</sup>定<sup>けん</sup>支<sup>けん</sup>援<sup>けん</sup>について<sup>けん</sup>委員<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>皆<sup>けん</sup>さん<sup>けん</sup>で<sup>けん</sup>話<sup>けん</sup>し  
<sup>あ</sup>合<sup>かい</sup>って<sup>かい</sup>い<sup>かい</sup>ただ<sup>かい</sup>け<sup>かい</sup>る<sup>かい</sup>会<sup>かい</sup>議<sup>かい</sup>です<sup>かい</sup>ので、<sup>かい</sup>この<sup>かい</sup>会<sup>かい</sup>議<sup>かい</sup>の<sup>かい</sup>進<sup>かい</sup>め<sup>かい</sup>方<sup>かい</sup>という<sup>かい</sup>と<sup>かい</sup>こ<sup>かい</sup>ろ<sup>かい</sup>も<sup>かい</sup>委員<sup>かい</sup>の<sup>かい</sup>皆<sup>かい</sup>さん<sup>かい</sup>から<sup>かい</sup>御<sup>かい</sup>意<sup>かい</sup>見<sup>かい</sup>を<sup>かい</sup>い<sup>かい</sup>た<sup>かい</sup>だ<sup>かい</sup>き<sup>かい</sup>な<sup>かい</sup>が  
<sup>とうじしゃ</sup>ら、<sup>かた</sup>どう<sup>ご</sup>いう<sup>い</sup>ふ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>に<sup>い</sup>す<sup>い</sup>れば<sup>い</sup>当<sup>い</sup>事<sup>い</sup>者<sup>い</sup>の方<sup>い</sup>が<sup>い</sup>御<sup>い</sup>自<sup>い</sup>身<sup>い</sup>の<sup>い</sup>意<sup>い</sup>思<sup>い</sup>を<sup>い</sup>表<sup>い</sup>明<sup>い</sup>で<sup>い</sup>き<sup>い</sup>る<sup>い</sup>のか<sup>い</sup>と<sup>い</sup>いう<sup>い</sup>の<sup>い</sup>を<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>一<sup>い</sup>緒<sup>い</sup>に<sup>い</sup>考<sup>い</sup>え<sup>い</sup>たい  
<sup>おも</sup>な<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>っ<sup>おも</sup>て<sup>おも</sup>お<sup>おも</sup>り<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>す。

<sup>さき</sup>先<sup>み</sup>ほ<sup>み</sup>どの<sup>けん</sup>水<sup>けん</sup>島<sup>けん</sup>先<sup>けん</sup>生<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>研<sup>けん</sup>修<sup>けん</sup>で、<sup>い</sup>意<sup>い</sup>思<sup>い</sup>決<sup>い</sup>定<sup>い</sup>支<sup>い</sup>援<sup>い</sup>の<sup>い</sup>ポ<sup>い</sup>イ<sup>い</sup>ン<sup>い</sup>ト<sup>い</sup>の<sup>い</sup>中<sup>い</sup>に、<sup>い</sup>意<sup>い</sup>思<sup>い</sup>決<sup>い</sup>定<sup>い</sup>支<sup>い</sup>援<sup>い</sup>は、<sup>い</sup>意<sup>い</sup>思<sup>い</sup>の<sup>い</sup>形<sup>い</sup>成<sup>い</sup>、<sup>い</sup>意<sup>い</sup>思<sup>い</sup>の<sup>い</sup>表<sup>い</sup>明<sup>い</sup>、

いし じつげん か した だん しんらいかんけい こうちく じんてき ぶつてきかんきょうせいび  
意思の実現と書いてある下の段に、信頼関係の構築でしたり、人的・物的環境整備というページがあります。

はぐるま ず い しけいせい い しひょうめい しえん かんきょう せいび ひつよう  
この歯車の図です。意思形成とか意思表明とかというのを支援するために環境の整備が必要なんだという

われわれじむきょく ひじょう どうい い み かんきょうせいび  
ところは、我々事務局としても非常に同意するところでございまして、そういった意味でも、環境整備というもの

とうじしゃ いいん かいぎ ば じっしつてき さんか とりくみ なに とうじしゃ かつ  
を、当事者の委員もいますし、この会議の場を実質的に参加するという取組は、何も当事者の方だけではなく

さまさま たちば ごさんか すべ いいん かつ い み  
て、そのほか様々な立場から御参加いただいていますので、全ての委員の方にとって意味のあるものになるか

おも  
なというふうに思っております。

かいぎ しんこう ぶぶん じむきょく とうじしゃいいん かつ いっしょ  
もちろん会議のスムーズな進行という部分もございますので、事務局のほうで当事者委員の方と一緒に

じっしつてき かいぎさんか じゅんび かいぎ ば さんか  
実質的に会議参加の準備はもちろんしていくわけですが、会議の場においてもしっかり参加できる、と

めざ いいん みな いっしょ かんが おも  
いうところを目指して、ちょっと委員の皆さんと一緒に考えていきたいなと思っております。

ほそく ねが  
補足でございます。よろしく願いいたします。

そ ね かいちよう なに はな あ ごりかい  
【曾根会長】 ありがとうございます。何を話し合いたいかということについては御理解いただけましたでしょ

うか。じゃ、どうしていくかということが工夫のしどころなんですけれども、せっかくなのでお一人ずつ、何かアイ

かんが はな おも はやし  
デアがあれば、あるいは、お考えがあればお話いただけたらと思いますが、林さんからいいですか。

はやしひろきいいん だいじ おも おおぜい しょうにんずう あつ はなし  
【林大樹委員】 とても大事なことだと思いました。さっき、あまり大勢ではなくて少人数で集まって話をした

おも にんずう いちど わたし いいん  
いというのがありましたが、それはいいアイデアだと思いました。これだけの人数で一度に、私たち委員が

けいけん とうじしゃ いのうえいいん い しけつてい しえん  
経験したほうがいいことは、当事者である井上委員の意思決定をどういうふうにしたら支援することになるの

わ なん じっけん  
かというのが、ちょっとやってみないと分からないんですよ。そういう何ていうか実験みたいなことを、これだ

にんずう いっぺん こうりつ わる しょうにんずう きかい なに  
けの人数で一遍にやってもすごく効率が悪いので、少人数でそういう機会をつくって、何かテーマというか、で

できるだけ簡単な課題みたいなものについて、井上さんの意思決定という言葉もちょっと硬いですが、どうい

ふうにしたら考えが進むのかとか、あるいはそれを言葉にできるのかというのを私たちが目の前にしながら

ら、こうしたら井上さんの意思決定が形になるんだというのが分かっただけなのかなと思いました。ちょっと

やってみないと分からないですが、以上です。

【曾根会長】 林さんとは、地域福祉計画と一緒に進めてきて、なかなかその辺がどうしたらいいのかなとい

うのは、私も前回は感じて、今回もすごく感じて、共有していただいてありがとうございます。

順番によろしいですか。

【金澤委員】 すぐにすごくいい意見が思いつかないんですけども、井上委員が提案してくださったディスカ

ッションなんですかね。私も話がまとまっていないんですけども、実際に経験してみるというのはやってみて

もいいんじゃないかと思いました。

【曾根会長】 何を経験してみる？

【金澤委員】 井上委員に限らず、御本人として出席してなさる方々が、意思決定……。意思が固まっていくと

ころになるのかもしれないんですけども、そういうやり取りを実際に経験してみるとということなのかな、と捉え

たんですけども、それはいいのかなと思いました。すみません。正直言って、ちょっとまだ分かりません。

【事務局】 事務局が井上委員の提案を事前に聞いておりますので、少し補足させていただくと、井上委員が

お茶会をやりたいといったのは、全員でお茶会を一堂で開催するというよりも、毎回会議の冒頭10分ぐらいを

使って、小さいグループで、例えば今14人の審議会でございますけれども、例えば3~4人でグループをつく

って、毎回違う人とコーヒーを飲みながらアイスブレイクしていく。そのときに委員の方のお名前であるとか、顔

であるとか、発言しやすい雰囲気になるといいなというお話だったと思います。なので、1回やって全員の名

を覚えるというよりも、井上委員と毎回違う人が話すようなタイミングをつくってほしいという提案で事務局とし

ては認識しております。もし違ったら井上委員、教えてください。

【井上委員】 考えます。

人数はどのくらいにするかとか、時間は10分なのか、5分なのかとかは、もう少し御本人は、国しよう協

詰めていきたいんですけども、アイデアとしては、冒頭にそのくらいの時間というところ

【曽根会長】 おおむね小鷹さんの補足したような内容で、もうちょっと具体的なところは考えたいということ

ですけれども、金澤さんがおっしゃったみたいに、こうやったらうまくいくなんで誰も分からないと私も思うん

です。だから、いいと思うんです。いろいろ考えることが大事かなと思うので。

【横田委員】 これだけ大勢の人数がいたら緊張しますよね。僕もいろんな人の前へ出るのはすごく苦手

で、井上さんがおっしゃるように相手のことがどんな人か知らないと、やっぱり自分の意見も出ないし、緊張

して話もできなかったり、それで難しい言葉だけが出てきちゃうという、そういう意味で御提案はすごくいい

と思います。

ただ、1つ、僕が、むしろ委員の皆さんにお願いしたい、申し上げたいのは、意思決定支援の「当事者」とい

言葉。井上さんはどう感じているかちょっと分からないですけども、当事者、しょうがいを持った方が当事者

なのか、僕はむしろ意思決定支援というのはもう基本的な人権のところ、基本的人権というのは僕らも意思

決定支援をされていることはたくさんあると思うんです。家族だったり、仲間だったり。だから、しょうがいがあ

るなしにむしろ関係なく、本当に人間の普遍的な権利としての意思決定支援を受けるというところでは、僕ら

もみんな一緒なのかなと。そういう意味では、本当に当事者の方だけにスポットを当てられちゃうというのは

多分すごくつらいんじゃないかなと思います。僕らも本当に意思決定支援をされる側であることも、いろんな

場面であるかと思えます。ただ、その頻度は違ったりするかと思って、そこはいろんなしょうがいをお持ちの方

の支援の仕方もあるかもしれない。そういうところをたくさんお話ししていきたいと思っております。

【小山委員】3回目で井上さんがそう言ってくれたので、これからの委員会の流れはこういうふうにしていけ

ばいいのかなと。多分、今まで事務局も、違った形じゃなくてはいけないだろうと思っただろうなというの

で、私はそれはすごくいいなと思えます。意思決定という言葉を使わずに、そういう話が国立市でできるよう

な報告書みたいなのができたらいいだろうなと思って、「やりたい気持ちをお手伝い」とか、「あなたの思い

をお手伝い」みたいな、そういうフレーズとかそういうのとかがいっぱい出てきたらいいのかなと思いました。

少人数でやるのとかもすごくいいと思うし、あと、やっぱり毎月やらないと駄目なんじゃないですか。顔を合わ

せるためには、事務局は絶対嫌だと思っているかもしれないけれども。やっぱり関係って顔を合わせないとつ

くっていけないなと思っているので、多分、時々会うだけじゃ、知り合いになれないなと思いました。

【林瑞哉委員】井上委員とは以前から何度かお会いしていると思えますけれども、先ほど小山委員も言われ

たように、意思決定支援の支援の意味づけもやっぱりすごく難しい。権利擁護という言葉自体が難しくなっ

ているので、もう少しやっぱり共通に分かりやすいような言葉づくりというのは確かに必要かなと思えます。あ

とは、確かに大人数の中で話すという段階として、少人数で少しちょっと砕けた形での話というのは私も

賛成です。そこから何か糸口が見つかればいいかなと私も思っています。

【山地委員】お互いを知るというのは、会議をどう進めるかというところでは大事だと思います。どんな会議

でも、というふうおもに思っています。面白おもしろそうだなおもと思うので、それぞれが知しるといふことおももあるので、もしかしたら

今後議論こんごぎろんが活発かっぱつになることおももあるんじゃないかと提案ていあんを聞いて思おもいました。

【池田委員】井上いけださん、池田いと言いいます。よろしくお願ねがいします。

【井上委員】お願ねがいします。

【池田委員】御提案ごていあんに賛成さんせいして、進め方すす、いろいかたろやってみるといいのかなおもと思います。

【村上委員】井上むらかみさんと、この間い、この会議かいぎのもう一つ前ひとのこの福祉会館ふくしかいかんに上あがってくるエレベーターなかの中

で御一緒ごいっしょできて、ちよはなっとお話しはなしてきてうれしかったです。

【井上委員】名前なまえをもう1回かい、教おしえてください。

【池田委員】池田いけだです。よろしくお願ねがいします。

【村上委員】私わたしは、村上むらかみです。よろしく。

【芳賀委員】井上委員いの提案ていあんしてくれしょうた小グループはなしの話はなしといふのは、やっかおぱり顔なまえと名前いっが一致ちかする、近づ

るのはいいのかなおもと思います。私わたしは、ちよむずかっと難いしいこといを言いわれても自分じぶんの立場たちばからしか答こたえられないし、

先さきほど水島先生みずしませんせいの話はなしを聞きいて、あきあ、こひつようんな必要はじがあるのかと初しめて知しったことかいがあったので、やっかいぱり回

重かさねていちしきって、知ちけん識ふとか知見おもを増おもやしたらいいかなおもと思っています。

【佐藤委員】以前さとう、地域福祉計いぜん画策定委員ちいきふくしけいかくさくていいいんといふか、市しの行事ぎょうじにうちむすこの息子さんかも参加うしさせていうしただいで、後うしろ

の傍聴席ぼうちょうせきで見みていたりしたんとうじですが、当時とうじもやっさんかぱり当事者しよるいが参加ふするといふこととうじで、書類りかいにルビふを振ふって

だしりようさったりしたんはですが、その資料わが果しりようたして分ふかりやとうじすい資料りかいだふったか、ルビとうじを振りかいれば当事者ふが理りかい解ふできる

ものかといかんう感じゆうじが、もう十数年前すうねんだおもったんおもですけれへいども思こいました。やっなぱり平易なな言葉きで、何きを決きめていか

なくてはいけないかというのを、<sup>だれ</sup> <sup>わ</sup> <sup>せつめい</sup> <sup>いちばんじゅうよう</sup> <sup>かん</sup>  
誰も分かる説明というのが一番重要なんじゃないかなとつくづく感じており  
ます。

なので、<sup>いのうえ</sup> <sup>ていあん</sup> <sup>お</sup> <sup>なに</sup> <sup>ぐたいき</sup> <sup>けてい</sup>  
井上さんからそういう提案があったので、ポイントを押さえて何をというふうに具体的に、決定しやす  
<sup>はんだん</sup> <sup>ていあん</sup> <sup>かいぎ</sup> <sup>ないよう</sup> <sup>すす</sup> <sup>い</sup> <sup>み</sup> <sup>かいぎ</sup> <sup>おも</sup>  
い判断というか、提案や会議の内容で進めていかれるほうが意味のある会議になるんじゃないかと思いまし  
た。

<sup>そ</sup> <sup>ね</sup> <sup>かいちよう</sup> <sup>せつめい</sup> <sup>むづか</sup> <sup>おも</sup>  
【曽根会長】 どう説明するかというのはすごく難しいと思います。

<sup>あき</sup> <sup>の</sup> <sup>いいん</sup> <sup>いのうえ</sup> <sup>ていあん</sup> <sup>き</sup> <sup>おも</sup> <sup>おも</sup> <sup>りゆう</sup> <sup>わたし</sup> <sup>おな</sup> <sup>かんかく</sup>  
【秋野委員】 井上さんの提案を聞いて、いいなと思いました。いいなと思った理由は、私も同じような感覚が  
あるからです。どういうことかという、ここに<sup>あつ</sup> <sup>いいん</sup> <sup>かたがた</sup> <sup>なか</sup> <sup>ばしょ</sup> <sup>あ</sup>  
集まっている委員の方々の中には、ほかの場所でお会いしたり、

<sup>はなし</sup> <sup>かた</sup> <sup>すうめい</sup> <sup>おお</sup> <sup>かた</sup> <sup>こんかい</sup> <sup>かいぎ</sup> <sup>はじ</sup> <sup>あ</sup>  
お話をしたことがある方も数名いらっしゃるんですけども、多くの方は、今回この会議で初めてお会いした  
ばかりの方です。初めてお会いする方については、<sup>かた</sup> <sup>はじ</sup> <sup>あ</sup> <sup>かた</sup> <sup>さいしょ</sup> <sup>だい</sup> <sup>かい</sup> <sup>じ</sup> <sup>こしょうかい</sup>  
最初の第1回のときに自己紹介をそれぞれしたことで、お

<sup>なまえ</sup> <sup>しよぞく</sup> <sup>ひごろ</sup> <sup>いちおうわ</sup> <sup>き</sup>  
名前とか、どういう所属だとか、日頃どんなことやっているかは一応分かったような気がするんですけども、  
<sup>いじょう</sup> <sup>きょう</sup> <sup>たが</sup> <sup>かんけい</sup> <sup>ふか</sup> <sup>かんが</sup> <sup>わ</sup>  
それ以上には今日までお互いの関係を深めることもなくきていて、<sup>かんが</sup> <sup>わ</sup>  
どうしているか分からないで

<sup>ぎやく</sup> <sup>おな</sup> <sup>わたし</sup> <sup>ぜんぜん</sup> <sup>わ</sup> <sup>おも</sup> <sup>かた</sup> <sup>おお</sup> <sup>おも</sup>  
すよね。逆も同じで、私のことを全然分からないなあって思っている方も多くいらっしゃると思います。

<sup>なか</sup> <sup>かいぎ</sup> <sup>いのうえ</sup> <sup>ていあん</sup> <sup>ちい</sup> <sup>かい</sup> <sup>ぶん</sup> <sup>ぶん</sup>  
そんな中で会議をするよりも、井上さんの提案のように、小さいグループをつくって、1回10分でも5分でも、  
<sup>おも</sup> <sup>ひざ</sup> <sup>つ</sup> <sup>あ</sup> <sup>はな</sup> <sup>かんが</sup> <sup>ひと</sup> <sup>すこ</sup>  
思っているところを膝を突き合わせて話すことで、こんなことを考えている人なんだというのは少しずつでも

<sup>み</sup> <sup>おも</sup> <sup>すこ</sup> <sup>み</sup> <sup>かいぎ</sup> <sup>ひと</sup> <sup>はつげん</sup> <sup>き</sup> <sup>も</sup> <sup>い</sup> <sup>み</sup> <sup>つた</sup>  
見えてくると思いますが、少しずつ見えてくると、この会議ももっとその人が発言している気持ちとか意味も伝わ  
<sup>おも</sup>  
るようになるんじゃないかと思いました。

<sup>ていあん</sup> <sup>ごかい</sup> <sup>ていせい</sup> <sup>いのうえ</sup> <sup>いいん</sup> <sup>めい</sup> <sup>ちい</sup>  
提案を誤解していたら訂正していただきたいですけれども、井上さんと、ほかの委員が3~4名で小さなグル



っているか、本当はそういう嗜好、価値観と言ってしまうんですけども、そういったものをみんなが、自分も含

めてみんながお互いに知り合っているという状態が実はとても大事であって、意思決定自体はその結果の

ひとつにすぎないので、あまり決定ばかりにこだわらずに、何が大事なのかということも一緒に話し合っていく。

それをお互いに、どうやったら分かり合えるんだろう、そういうことをぜひお話のテーマに挙げていただくとい

いのかなど思っています。

【川端氏】1回目に研修をさせていただきました。最初に依頼をいただいたときに「当事者の方に分かるよう

に御説明となると、1時間ではとてもお話ができなと思うんです」ということはすごくお話をし、資料をそ

れでも随分作り替えて、それにルビを振ったものを用意しましたが、これで分かるかと言われたらやっぱり

分からないだろうなどと思って、「その前にしっかり事務局としては説明します」とは言っていたんですけど

れども、井上さんだけではなくて、恐らくものすごく難しかったですよね、私のお話、と思っっているんです。

権利擁護の話だったり、成年後見の話というのは、いつも難しいことをどうやって分かりやすく伝えるかと

いうことが、闘いみたいなどころがありまして、そして「何を質問したらいいのかわからないくらいわから

ない」というふうに言われることも多く、恐らく弁護士の先生、司法書士の先生、社会福祉士の先生で成年

後見に携わっていらっしゃる方は、どうやったら伝えられるかということを日々悩んでおられたかなというふう

に思っています。だから、井上さんが提案してくださったことは本当にありがたいなど。ありがとうございます。

最初に、5分、10分だけではなくて、事務局から資料の説明をした後、もう1周グループに分かれて感想を言

い合ったり、分からないことを言い合ったりということができると、もう少ししゃべりやすくなるんじゃないかなと

思っんですね。「こんなことを聞いてもいいのかしら」というぐらい多分ものすごく難しい言葉が並び始めるの

で、そのときに「ここが全く分からない」ということだったら、小さいグループであれば言いやすいのかなと思っ

てまして、資料を理解してもらったための委員会が1回あって、その後にみんなで感想を言い合って、資料

を理解した上で家に帰ってもう1回よく考えて、次の会に意見を言い合う会というのがあるほうが、分かりや

すい資料を作るというのも、事務局で用意するのも限界があると思いますし、私たちも「どこが分からないか

分からない」というぐらい言葉が難しいので、何から御説明していったらいいのかなという状態ですし、そし

て、素朴な疑問を言うていただくことで初めて井上さんの気持ちも当事者の方の気持ちも分かることがあっ

て、そういう丁寧な進行を、最初の5分、10分のお茶会だけではなくて、少人数で感想を言い合ったり、質問を

言い合ったりした後に、もう1回みんなでそれを共有するというようなやり方もあるのかなと、すごく負担になっ

たらごめんなさい。そう思いました。

【曾根会長】ありがとうございます。とにかく時間がかかるということについては、少し腹をくくって取り組ま

ないと、なかなか今の状態は変わらないかなと思いました。

それで、もう時間なんですけれども、こうやったら絶対うまくいくというやり方はないということがよく分かりま

した。あと、少しグループに分かれて話し合うということについては、皆さん、特に反対はなかったというか、むし

ろそうしたほうがいいんじゃないかという御意見だったんじゃないかと思えます。あと、一番最初に少しお茶を

飲む時間をつくって、お互いにリラックスして知り合うような時間を持つということについても、皆さん賛成され

ていたかなと思いました。

今日は議題に入る時間はないと思いますけれども、次回から、委員さんは14人ですか。事務局も入ってもら

ってもいいと思うんですけれども、4つぐらいのグループに分かれていただいて、最初にお茶を飲む時間を少

と たが し あ あと かいぎ はな あ  
し取ってお互いに知り合っていたいただいて、その後、会議のグループごとに話し合うというスタイルでやってみる

ぎだい ぎだい つた わ  
というのでいかがでしょうか。議題があるので、こういう議題ですということをお伝えして、そのことを分かれた

なか はな あ いけん あと はっぴょう  
グループの中で話し合っていたいただいて、グループごとにどういう意見があったかというのをその後発表してい

すす かた じかい と なに  
ただいて、それで進めていくというやり方で次回は取りあえずやってみて、それでも何かこうやったほうがいい

かいぜんてん つとと い いちばんのぞ かいぎ  
んじゃないかという改善点があったらその都度取り入れて、どうやったら一番望ましい会議になるかというのを

すこ さく すす ていあん おも  
少し探りながら進めていくということを提案したいと思うんですが、いかがでしょうか。

は が いいん かんが じぶん かんが わ み  
【芳賀委員】 この考えていくと、自分が考えていて、ちょっと分からなかったんですけども、ゴールを見え

いけん だ あ りかい ふか かたち けっか だ  
ないことをみんなで意見を出し合いながら理解を深めていくという形で、ゴールというか、結果を出すんじや

かてい いけん い あ かたち ほうこうせい み にんしき  
なくて、みんなで過程というか、意見を言い合って、それで形にするというか、方向性を見いだすという認識で

いいんでしょうか。

そ ね かいちょう かいぎ さいしゅうてき こんかい ほうこくしょ む  
【曾根会長】 そうですね。会議は、最終的には、今回は報告書をつくらなくてはいけない。だから、それに向け

すす たと こんかいつ のこ ぎだい ないよう  
ては進めていくんですけども、例えば今回積み残しの議題としては、アンケートとヒアリングの内容について

じかい さいしょ すこ ちゃ の じかん と あと  
というのがありますので、次回は最初に少しお茶を飲む時間を取った後に、アンケートとヒアリングについてグ

はな あ て いけん あと だ あ  
ループごとに話し合ってもらって、そこで出た意見をその後みんなで出し合って、アンケートとヒアリングをどう

と すす かた おも  
していこうかというのを取りまとめる。そのような進め方になるかと思います。

は が いいん わ  
【芳賀委員】 分かりました。ありがとうございます。

じむきょく さき いいん はな わ ばあい ないよう  
【事務局】 先ほど委員からお話しがりましたように、分かりやすいというところの場合、まず、どういう内容

けってい みな はなし あ いまに はな かん  
を決定していくのかということがふわふわとしていると、皆さん話し合うときに、今何を話すんだっけという感じ

になっちゃうと思うので、最初のお茶を飲みながらのところは自由なお話でもいいと思うんですけども、小

グループに分かれるときに、事務局から資料を説明させていただいた上で、これについて話し合ってください

という出し方をしたほうが分かりやすいかなとは思っていますので、次回はアンケートとヒアリングのことなの

で、アンケートとヒアリングについて皆さんで話し合ってくださいというところから始めようとは思っていますが、

曽根会長からも、正解があるわけではないということは何度もおっしゃっていただいていますので、やり方は

試行錯誤しながら、こういうやり方はどうかと、皆さんとお話ししながら進めたいなと思っております。

【曽根会長】ということで、皆さん、いかがでしょうか。皆さん、よろしいでしょうか。井上さんはそういう進め方

でどうですか。

【井上委員】グループでお茶を出す。話をします。4人、やってみよう。

【曽根会長】分かりました。では、そういうことで進めていきたいと思うんですけども、グループ分けについ

ては、事務局のほうでその都度出していただくということでもいいですか。

【事務局】はい、大丈夫です。

【曽根会長】あと、最初にお茶を飲むというときのお茶代はどうしたらいいでしょうか。

【事務局】今、社協さんとも話し合っているんですが、皆さんが持ち寄っていただくよりは、こちらで例えばコ

ーヒーであったり、カフェラテであったり、スティック型のインスタントのものになると思うんですけども、それ

を選んでいただいて、「それが好きなのね」とか、「それ選んだのね」みたいな、話のきっかけにもなるかなと

思いますので、こちらで御用意をしたいと思います。もし可能であればコップは持ってきていただけると。もちろ

ん紙コップとか御用意はしようと思うんですが、この御時勢、SDGsと言われていまして、できるだけマイ

カップをお持ちいただけますとこちらとしては非常にありがたいと思いますので、ぜひマイカップをお持ちいただけるとうれしいです。

【曽根会長】 分かりました。じゃ、マイカップを皆さん、お持ちいただいて。

【事務局】 もしお菓子が必要であれば、お菓子は御用意できないので、御自身のお菓子はお持ちいただけます。結構です。

【曽根会長】 川端さんも毎回出てくださるんですか。じゃ、川端さんもグループに入っていていただいて、事務局と一緒にそこに座っていてもつまらないでしょう。

あと、傍聴の人も、グループに分かれて傍聴していただく？

【事務局】 一応審議会という構成上は、傍聴の方が審議に入ってくるというのは構成上難しいかなと思いますので、アイスブレイクのときに一緒に入っていただくのはよいかもです。そこは確かめます。

【曽根会長】 ただ、グループで話し合っていると、座っていても傍聴はできないと思うんですね。グループごとに分かれて傍聴するという、だから、意見を積極的に言うのはという、そういう御趣旨ですね。

【事務局】 おっしゃるとおりでして、参加すれば意見を言いたくなると思うので、別に駄目ですと申し上げるつもりはないんですけども、審議に入るというのは傍聴という形で、グループに分かれてどういう話をしていいのかなど一緒に聞きながら参加いただくのはよいのではないかと思います。

【曽根会長】 マイカップを持ってきていただいて、お茶はいいですね。では、傍聴の方はマイカップを持ってきていただいて、一緒にお茶会に参加してください。

それでは、今日の議題は以上で終わらせていただきます。事務局、お願いします。

【事務局】 本日の審議会はこれで終了いたしますが、次回の日程をお伝えしたいと思います。次回、第4回

の審議会でございますが、年を越します。令和7年1月21日火曜日でございます。場所が、今回の福祉会館

ではなく、また市役所第1・第2会議室に戻って開催をいたします。

第5回の審議会につきましては、令和7年3月28日金曜日、本当に3月の最後の金曜日で、場所はちょっと

今調整中でございますが、日程だけ確保しておいていただければと思います。

本日の議事録に関しましては、12月中旬をめぐりに委員の皆様へ送付できるように準備をしております。

次回の議題につきましては、本日お配りしましたアンケートとヒアリングの内容になるかと思っておりますので、恐れ

入りますが、事前に目を通していただきまして、分からないところとか、御意見を事前に持っておいていただ

るとありがたいと思います。

【曾根会長】 では、これでよろしいですか。今日は、水島先生、本当にありがとうございました。皆さん、次回

は楽しいお茶会から始まりますので、ぜひ楽しみに御参加ください。お疲れさまでした。